

平成30年度 第6回 FMはまなす番組審議会 議事録

1. 開催年月日 平成31年3月27日(水)
2. 開催場所 岩見沢市有明町南1番20
岩見沢市コミュニティプラザ1F FMはまなす会議室
3. 出席者 審議委員総数 8名
出席委員数 6名

出席委員の氏名
 - ・岡 嘉彦
 - ・仁志 正樹
 - ・木村 聡
 - ・永沼 興子
 - ・北口 博美
 - ・畑 孝子
局側出席者
 - ・阿部 啓吉(社長)
 - ・真壁 和雄(課長)
 - ・松井 宙夢(スタッフ)
4. 議題 「局制作番組」「市民制作番組」「その他の番組」についての審議
5. 議事の概要(放送期間3/9～3/16)
 - (1) 局制作番組
「週末らじお」
 - (2) 市民制作番組
「ザワちゃんねる」
 - (3) 他局制作番組について
東日本大震災特別番組
「ラジオから訴えたい想い～東日本大震災から8年～」

6. 審議内容

(1) 「局制作番組」について

「週末らぢお」

毎週テーマにそったトークと週替わりのコーナーでお送りしている。毎月第2土曜日は岩見沢西高等学校放送部の生徒、第3土曜日は北海道教育大学岩見沢校でバンド活動をしている生徒のコーナーと子育てに関して市教育委員会子供課の所美穂子さんをゲストに迎えたコーナーお送りしている。

① 事前意見回答報告

岡委員長

3月9日(土)「週末らぢお」13:15～15:00

「○ 一番の記念日は・・・テーマ。○ 岩見沢のニュース・・・3月5日ひな祭りお話しライブ3月8日農高? 3月9日9割ツアー満足、ワイン巡り、小林さやか講演会。○ いつかきつと・・・次の・・・克服したいこと・・・全体的に聞き取り難くはないか。内容がとりとめなく。話と笑いが混同して分かりにくさがあった。後半の音楽解説はそれなりによかった。」

北口委員

3月9日(土)「週末らぢお」13:15～15:00

「パーソナリティー2人の話は聞きやすく、安心感がありました。高校生のコーナーでは、常に笑っていたり、しゃべりながら笑っていて、高校生の楽しい雰囲気は伝わりますが、雑談がただ流れていたという感じでした。せっかくの地域FM ならではの高校生のコーナーだと思います。何か特色が出るといいと思います。その後、男性パーソナリティーのコーナーになり、途中で違う番組に変わってしまったのかと思ってしまいました。冒頭にそれぞれのコーナーの紹介はありましたが、何時何分頃に高校生のコーナー、何時何分頃は誰々のこんなコーナー、というように時間と、もう少し詳しい紹介があっても良いのかなと思います。」

畑委員

3月16日(土)「週末らじお」

「ゲスト所長。子ども会の年内行事の内容について、詳しく説明。研修会場の使用施設である砂川子どもの国も登場し、昔を懐かしく思い出しました。大きくなあれのコーナー。児童館や児童クラブの紹介。指導者によって活動内容も変わり、そこも子ども達にとって楽しいところであるとのこと。やはり人間力が大事と思いました。隠れたベストセラーである「子育て情報ガイド」備えあれば憂い無しと、コメントされていました。広く市内に置いて下さい。」

② 審議

岡委員長

「審議番組についての意見をお願いします。今回は局制作番組の週末らじお、それから市民制作番組のザワちゃんねる、それから3番目の他局制作番組と言う事で三つの審議をお願いします。週末らじおと言う事で、高校生の放送、それから教育大生の放送で聞かせて貰いましたが、色々やっている事は分るのですがどうなんでしょう。」

北口委員

「ずっと笑っていた感があります。」

岡委員長

「そうですね。しゃべっているのと笑っているのと、聞きとれないというか、これはなにを言っているのかと。」

北口委員

「そうなんです。ずっとなんです。」

岡委員長

「日記の事や追試の事をずっと言っているのだけど、何を言っているのかなど。後、あははと笑っている感じがしたんですね。面白いこと、良いこと言っているのかもしれないのだけど、そういう印象でした私は。」

北口委員

「私も勿体ないなと思いました。」

畑委員

「60分という長丁場なのでやはりメリハリというか、コーナーコーナーの区切りとか分かり易く伝えると良いと思います。私は所課長とは色々と他の場面でも関わっているので、「あ、所さんだ」というような事で耳をそばだてて聞けるような感じになりますので、知っている方が出るとやはり聴くという点はありますけど、やっぱり60分という時間の使い方というのを勿体ないなと。でも楽しそうな笑い声であるとかは若い人の良いなと思いますね。」

岡委員長

「今。お話しされたように学生が出たり、市民の生徒さんが出たりするのは非常に良いし興味があると思うんですけど、放送の流し方と言うか今言ったように、区切りを付けてはっきりとしたメリハリがあると聴き易いかなと感じました。テクニックなのか、放送の技術的な物なのか。」

スタッフ松井

「この西高生のコーナーというのは、前の年代から入れ替わって、今2代目の子達です。代表しているのは3年生の男子が一人と女子が二人。バランスがとれているのと、後、やる気がすごくあるのですが、前の年代の人達は学校全体にアンケートを配って回り、その結果を番組で紹介したりしてくれていました。そういう話をしてみたりしたら、もしかしたら今の年代の子達もやる気があるので改善出来るのかなと思います。」

岡委員長

「やる気もあるし、若い人の声があることは非常に良いことだと思います。それを上手に生かす為には、今言ったようにメリハリが大事なんだよとか区切りがこうだよとか教えてあげるとさらに良い番組になるかもしれませんよね。大事にしたいと思う感じはしますよね。今回はたまたま何

人かしか聴いていないですけども、毎週やっているから教育大の時の聴いているという方はおられるのですか。育てていくためにはこういう指導も大事ではないのかなと思います。」

北口委員

「生放送を終わった後に、学生たちに録音したのを聴かせていたりしていないのですか。自分たちで聴いているのかなと後で感じたのですが。」

スタッフ松井

「高校生たちは聴いていないですね。録音した素材を貰ってスタッフは聴いていますが。教育大生は自分達で放送素材を編集して作ってきます。なので聴いて繰り返し聞く事はやってると思います。」

北口委員

「聴かせたらいいと思いますよ。」

畑委員

「後、局側でアドバイスとかされていますか。」

スタッフ松井

「はい、しています。」

畑委員

「やはりマイクの向こうにはリスナーさんが聴いているのであって、リスナーに向けて例えばワイワイと和気あいあいと話していたとしても、向こう側にはリスナーさんがいらっしゃるんだという事を意識してもらえれば、少し緊張するかもしれないけど、又その緊張感が若々しくて良いのではないのでしょうか。」

岡委員長

「今回のようにこういう声もあるよと、こういう風にした方が聴き易いよとかアドバイスしてあげると、次の回はおそらく直されているかなと。とても楽しそうな若者のお話だなと言う感じはするんですけど。その他ありませんか。では次に行きましょう。」

(2) 市民制作番組について

「ザワちゃんねる」

商店街の若手の「いま」を届ける番組。どんな事を考え、どんな事を目的にして活動しているかを伝えている。

① 事前意見回答報告

永沼委員

3月16日(土)

「若い人達が街づくりに市民の人たちに声をかけ、頑張っていることに感動しました。」

仁志委員

「ザワちゃんねる」を聴いて

「前々」コンビの番組楽しく聴きました。市商連青年部のメンバーでもあり、青年団体の活動を通じての「まちおこし」は頼もしく、青年ならではの「行動力と発想」大歓迎です。話題に中の「人生ゲーム」等450名の参加をした市民と市外の方が、商店街の賑やかさを体験したこと等、新鮮な驚きとヒントを得たような気がしました。ネット時代の中で、全国の研修から得た本州での実体験を併せて語る様子は頼もしく聞いていました。ネットでの体験と既存商店街「二世」の活躍と「繋がる元気ヨソ者」との共同行動体が、新しい商店街の「顔」を創る気がしました。今後とも楽しみにしたい！聴きたい番組です。P S . 4名の音声のバランスが良くない気がしました。二人の声が遠くからの参加に聞こえました。」

畑委員

3月16日(土)

「三人の皆さんのもう少しリスナーを意識しての会話が欲しいところです。」

② 審議

岡委員長

「では、私は聴けなかったのですが、聞いた方の補足等をお願いします。」

仁志委員

「たまたま二人とも消防団のメンバーでもあるので、面白い色々な発想をしているんだなど。市商連の青年部の関係で色々話は聞いてはいました。」

永沼委員

「人生ゲームはどんな事をしたのですか。」

木村委員

「私も直接は見えていないのですが、岩見沢青年会議所が主催でやっている企画で、街の中の各商店街のお店をボードゲームの人生ゲームに見立てて各商店を回って行ってという風に聞いています。」

北口委員

「参加したんですけど、ルーレットを回して升目ごとに当たったお店に行って、そのお店でゲームをやったりとかクイズを出したりして。一緒についてくる大人は買い物をしたりして、普段入らないようなお店を回ってゴールするというものでした。」

永沼委員

「それを説明して欲しかった。全然わからない。」

仁志委員

「そこは説明していなかったですよ。」

畑委員

「商店街は何店ぐらいの参加があったのですか。」

木村委員

「30～40店ぐらい。」

スタッフ松井

「当局でも取材、中継をしたんですね。市内の方と市外の方が半々ぐらいの割合で、かなりネットを通じて知ったという人がいらっしやいました。」

木村委員

「本州のJ Cが開発したプログラムで、出来上がったものを岩見沢でやったと聞いていますので、本州の方はもう2千人近くの方が参加しているようなことです。」

岡委員長

「450人ですよ。」

木村委員

「岩見沢でも非常に多くの方が参加しています。」

永沼委員

「孫を連れて行けば面白いみたいですよ。おばあちゃん達だけで行ってもただ寒いだけだった。なにか高齢者にも面白い物を提供して欲しいなと言うのはありますよね。」

仁志委員

「そうですね。色々な人生があると思うので。だからそういう年齢層に分けた形の人生ゲームがあっても面白いのだらうなと聞いていて思いました。」

畑委員

「年齢層に分けての人生ゲームと言うのも面白いかもしれないですね。」

仁志委員

「面白いと思いますよ。石材店を回るのもあっても良いだろうし、お寺を回っても良いだろうし。」

北口委員

「4月に去年の振り返りの反省会と今年の企画会とかがあるんです。提案してみます。」

永沼委員

「サラリーマンの人が参加していたと言っていましたよね。計画の段階でお店屋さんだけでなく、小学校を回っていたとか…」

北口委員

「そうですね。市内の小学校を回って子供たちを連れてきたという感じです。」

木村委員

「青年会議所は40歳までなので、30代ぐらいを中心に子育て世代ですからそういう意味ではサラリーマンの方もその繋がりでしたのではないのでしょうか。」

仁志委員

「番組では4人いて一人あまりしゃべらなかったけど、ビデオを撮っていたんですね番組の中で。だからFMの放送をしている所の様子をビデオで撮って、今度それをFMに参加しているという事でJCで発表すると言っていたので、そういう使い方もあるんだなど。やっぱり若い人は面白いなどおもいました。」

畑委員

「広がりますね。」

仁志委員

「そうなんです。FMはまなすのスタジオで今放送している所をビデオで撮ってそれを事例として上げる。なるほどなど。」

畑委員

「私が思ったのは、リスナーを意識しての放送をと思ったのは、話の内容はすごく活発に活動されているし分かるんですけど、ただ聴いている向こう側の人に話しかけるとい
うか、問いかけるという。色々な行事をやっていますが、聴いている方が参加していらっしやったかもしれませんので、聴いている方がいるという事を前提にその人に話しかける。そうならば一体感的な「あ、私もそれ行ったわ。」とか。あまり離れた話になるとこの番組を聴くか聴かないか、果たして皆が興味を持って聴いてくれるかなど。もっとその楽しさとかを今聴いている人に伝えて欲しい、もっと向うの人に。これがラジオの面白さであるし知っている人が出るとなると聴くという所でもあるし。私達も昔そうだったんです。どうしても限定されてしまうし、もっと聴いて頂くにはもっと身近に感じる進行をして欲しい。今回初めて聴きましたが今後も聴きたいなとは思っています。」

木村委員

「大事な事ですよ。」

岡委員長

「内容を放送するということでは、週末らじおも同じだと思
うのですが、やったことを上手く放送するんだけど、それを通して何を問いかけるとか、リスナーとの会話が出来ることが大事なのかなと思います。」

畑委員

「昔、快適生活塾の時のラジオ講座と言うのを受講したんです。その時に番組構成については学んだかなというのがるので、電波に乗せて向こうにいるんだ、その人に語る

んだという事、ここで話していてもそこは伝えているという意識というのがすぐ掴めるのではないかと思う。はまなすも歴史もありますしもっと語って欲しいなと思います。」

岡委員長

「テクニックとか習得してくれるとより効果的な番組になるという事ですね。」

畑委員

「プロではないんだけども声で伝えるしかないので、とにかく声で伝える事の面白さを分かって貰いたい。」

仁志委員

「講習会を中学生か高校生か一般の人も含めて参加して貰えるようなメニューを作ってみても良いのかもしれない。正直に言って勿体ないなど、仲間内だけでうけて。経験して行かないと出来ないことだし、そして言われないと分からない事なので実に勿体ない。せっかく楽しいことを意欲を持ってされているんで。ですからFMのネットワークで講習会をやられては如何かなと思います。自分達だけが楽しくてもどうしようもないですよ。」

畑委員

「つついそうになってしまいうんですよね。」

岡委員長

「この番組についてはこの辺で良いですか。」

(3) 他局制作番組について

東日本大震災特別番組

「ラジオから伝えたい想い～東日本大震災から8年～」

東日本大震災を体験された、東北コミュニティ放送協議会の加盟局及び臨時災害放送局による番組。震災発生から8年を迎える被災地の今をレポート、伝えたい想いを届ける番組。

① 事前意見回答報告

岡委員長

3月16日(土) 9:00~10:00リピート放送

「コミュニティFM8年間、加盟局11局、最後の放送役割終了というアナウンスに、改めて8年の経過と公共放送の意義と今までの放送の効果や被災者への励ましや価値を推測する番組であった。また被災者の方々の元気を持って立ち直っていく姿を、生の言葉で飾らず感じるよい番組であった。多くの人に聴いてほしい番組であった。

被災地の今 テーマ・・・離島

大島小学校に転任した校長先生の経験談は吸い込まれる。ラジオ石巻の伊豆島に行く。移住した佐藤さんの民宿経営~民宿経営のきっかけ、頑張っている様子、島の良さなど人柄のにじみ出た話に興味を持って聴いた。

宮城(しおがま) 高山さんインタビュー

「がんばる かあちゃん会」かき、のりの商品化」

永沼委員

3月9日(土)の放送番組について

「三か所の離島の今の様子を話していたが、まだ爪痕も残っている交通の便も良くなった。島の母ちゃん達が協力し合いカキの佃煮などを作って売っているという前向きな話を聞き、皆さんの協力体制が素晴らしいと思った。」

仁志委員

「ラジオから伝えたい想いを聴いて」

「東日本大震災から8年」早いもので「もう8年！」になるのですね。忘れる事への「罪悪感」と忘れる事の「大切さ」を同時に感じました。島の人々の暮らしの変化と海を恨まない言葉が残りました。復興と開発「人と人の繋がり」と「稼げる商品作り」と「島の特別な大切な時間」を経験などが一度行きたいと番組を聞いていました。岩手県、

宮城県、「気仙沼、本土、大島」今回の最終放送と聴きましたが、次の役割を担うFM番組を聴きたいと思いました。それにしても、いつも思うのが「自分だけは、大丈夫」がやはり心に残ります。」

小川委員

3月16日（土）9：00～

「震災にあった場所から4か所を選び、それぞれ被災地の今を伝えておりました。地震発生から8年の月日が経ち復興もそれなりに進んでいるようですが、そこに住む人々の心の深い傷はまだ癒されていないのでしょう。震災後とても重要だった「情報源」として設立した臨時局の役割も十分果たしたことから、この番組も今回が最後となることは、ある意味喜ばしいでしょう。しかし一方で震災の恐ろしさはいつまでも我々の中に残して後世に語り繋げていかなければなりません。存続するコミュニティ放送局はその役割を認識し地域に必要とされる情報発信基地であり続ける事を願います。」

北口委員

3月16日（土）ラジオから伝えたい想い

9：00～10：00

「気仙沼、女川、塩釜、それぞれの離島で体験した震災の時の話、震災後に移住した話など、どれだけ多くのひとりひとりにドラマがあるのだろう…と感じながら聞いていました。改めて災害について考える日になりますので続けてほしい番組ですが、今回最終回との事で残念です。」

② 審議

岡委員長

「震災から8年と言う事で、改めて震災の事を考えさせられる番組だったかなと感じますし、またFMの役割、地域の放送の役割というのも改めて大事なのかなと感じていました。生の声が聞けた様な感じがしました。」

永沼委員

「皆、明るくしゃべってくれたから。」

岡委員長

「良い番組だったなと感じました。今回で終わりだと言っていましたよね」

仁志委員

「この番組を聴いてて、ラジオで話されていたことなのか、テレビの画面で見た事なのか混ざってしまうんですね。誰が言っていたのか分からないけど、とにかく復旧・復興と言う事でやっては来てるんだろうけど本音は何所にあるのかなと。せっかく整備されて防波堤が出来たけど今度海が見えなくなった。では命を守るためにそれは要らないのか、どうしたらいいのかなというのを感じます。益々さびれる所もでてくるだろうし、それにしても自分だけは大丈夫と思っている人たちがきっと沢山いるんだろうなと。私もそうですけど。そんな事を感じながらラジオを聴いていて、それでも特別な時間がもらえるような、島に行ってみたいような、海産物も含めて、町の商品や製品は美味しいし、価値は十分あるし少しでもお役にたてるならと思いました。」

北口委員

「最終回という事で、本当に残念だなと思ったんですけど、去年時間があつたので東北に行った時に南三陸へ行って見てきたんですけど、全然まだまだなんだなと言う感じで、最後まで無線を流していた防災センターとか、この場所にいったらやっぱりまだなんだなと分かると、なんで最終回になっちゃうんだろうと思いました。もっともっといろんな場所であつたり色んな人が取り組んでいる事をもっと伝えて行ければいいのになと。たまたま震災直後に皆を受け入れたホテルに泊まったのですが、ホテルの従業員が宿泊客を連れて

見学させてくれるんですけど、誰一人としても皆違う
想いがあって体験してきているという事は伝えるべき
では無いかと思います。去年も審議の対象番組に
なったと思いますが続けてもらえたらいいなと思いま
した。岩見沢にか空知に関連するような防災番組を
何かやってもらえればと思います。」

木村委員

「臨時災害放送局もなくなったんですね。更新しない
という事で。」

真壁課長

「臨時災害放送局は自治体が申請するものであって、
放送局がやるものではないので、自治体が判断する事
によって放送局を立ち上げられるのが臨時災害放送局
のありかたなんですね。多分自治体との兼ね合いも
あったのではないかと思います。」

岡委員長

「放送を聴いていて、今回離島を巡っていましたよね。
どちらかという、今までイメージとしては津波の画
像を見ると本土の所より島の所の方が津波がひどいイ
メージでしたが、放送に中では此処の島では全然津波
が見えなかったというからどういうイメージをもった
らいいのか。」

北口委員

「無くなった方も一人もいなかったようですね。」

仁志委員

「細かなコミュニケーションがとれている所は被害が
少ないんだろうなと思います。」

岡委員長

「皆が聴いて良い番組だったなと言う感じですね。で
は、次は木村委員の意見がありますね。」

(4) その他の番組意見について

① 事前アンケート回答報告

木村委員

「今回の審議対象の番組につきましては、他の予定と重なり聴くことが出来ず申し訳ありませんでした。その代わりではありますが、3月22日と23日の番組について意見を送ります。

1. 3月22日 17:40~19:00放送

「金なま!!ナイト倶楽部」について

二人の男女、エリリンとひろむ君がMC（進行役）を務め進行している。3部構成でオープニング、ゲストコーナー、クロージングの3部構成となっていた。真ん中のゲストコーナーがメインでこの日は勝田さんがゲストで、イチローの引退から若い人を対象に人生講話的は話で共感できる内容だった。気になった点は二つ、MCの二人の部分（冒頭と終わり）のトークが一方的な自己満足のやり取りに感じた。TVなどのバラエティー番組のような飽きさせないテンポあるやり取りを目指しているのかと思うが、ダジャレとぼけ的なトークに終始し、一向に話が伝わってこなかった。この日のテーマ「欠かせない飲み物」でも、二人の飲み物の嗜好だけで終わり、広がりが無い。リスナーからの反応がないのであれば、自分たちで周囲に取材するなどの努力をしてほしい。次にトークだが、MCの自分の意見が入り込み、ゲストトークの魅力を殺している。あくまでもゲストを中心に、トーク内容を分かりやすく整理して、リスナーが分かりやすく聞きやすい放送に持つていく姿勢が望まれると感じました。公共放送であるとの自覚を認識してほしい。

2. 3月23日（土曜日）

16:00～17:00放送

市民制作番組「ホープサインの終わらない歌」
について

MCのホープサインさんの進行が聞きやすく、ゲストの話をうまく引き出している。この日のゲストはマイルストーンフォテンイヤーズという地元バンドだったが、そのバンド活動、曲作りのことを上手に引き出し、ライブハウスを新しく始めることなど意欲的な話も聞けて非常に心を動かされた。ホープサインさんは平日の局制作番組の進行もできると考えます。ぜひ一考をお願いしたい。」

畑委員

取材して欲しい事、情報について

ペットに関する情報。緊急時の無事に非難するためヒント。人間と同じように災害時備蓄用品など。

② 審議

木村委員

「先程の畑さんと同じになるんですけど、本人を前にして言いづらいですがやはり向こうにリスナーがいるという感覚がどうなのかなというのが疑問に感じたんです。テレビのバラエティ番組、お笑いのプロがやるものをFMはまなすでやらなくてもいいのかなという気がします。プロに任せればいいのでそれを生半可にやってしまうと逆に全然何も話が伝わってこない。もっと話すべき内容があるのかなと感じたことと、司会進行の役割を考えられた方が良いのかなと。例えばゲストさんのトークをリスナーがどう感じるか客観的な目を持ちながら。例えばゲストさんの話の中で捕捉してリスナーがもっと聞いてみたい部分とか、もうちょっと説明しないと

聞いている人が分からない人がいるかなという感覚が進行役には必要なのではないかと思うんですよね。それが勝田さんの色々な話にえりりんさんがかぶせるように自分の意見を言ってることによって、内容が何を話しているのか途中で分からなくなるので。これはMCとしてはもう一回考えて頂きたいと思いました。それに合わせて23日に放送されたミュージシャンのホープサインさんの進行はすごい良いなと思いました。非常にゲストの方の話が良く分かって、こういう方を市民なんですけども通常の番組の中で起用していくようなことも考えられた方がFMはまなすの番組が良くなるように思ったので取り上げさせて頂いたんですが。」

岡委員長

「自分たちが楽しむというよりもリスナーがいると言う事がとにかく大前提ですから、リスナーが聴きたいことを代弁してくれないとだめなのですよね。」

木村委員

「仲がいいのは分かるんですけど、さっきの高校生のトークじゃないけど、教室とかお茶の間に話しているんじゃないんだよと平たく言うとそういう感じなんです。」

畑委員

「聴いてる人ってわかるもので、私たちに語りかけてくれているのか、此処だけの会話か聞いて分かるんですよね。声って怖いんですよね。そこで意識を持つことで変わって来るかなと思います。」

木村委員

「ホープサインさんは良いと思います。」

岡委員長

「この他、畑さんから取材の意見が。」

畑委員

「今ペット産業がすごいじゃないですか。ちょっとしたヒントが分かる方がいれば。スマホとかの情報はあるんですがそれを見れる人は良いのですが、そういった手段が無い人はそういう声を伝えればいいのかと思うし、三浦さんの虹色カフェに繋げてもいいのかなと思います。今ある番組の中で繋げていくようにして、情報があると良いなと思います。」

岡委員長

「ペットが多いと言う事なので関心が高いかなと。こういう事も取り上げていくことも良いかなと思います。それでも共通して言えることは放送の構成、起承転結があるように自分の番組をどういう風に進めて行くか、皆に聞きやすい番組作りが大事かなと思います。常にリスナーがいる、リスナーに何を聴いてもらうのか、何を問いかけるのかを考えた番組作りと講座を開いて指導するのも大事かなと思います。」

7. 審議機関の答申処置及び年月日

なし

8. 前回の審議会の指摘事項について改善した事項

1) 局制作番組

「交通情報」については、除排雪時の通行止め情報を入れた放送を行った。

「まるちゃんとパイセンの楽しま Night」については

若者を対象にした番組と言う事で、若い世代のリスナーを獲得出来る番組作りを指導した。

2) 市民制作番組

「四朗のフレンドリータイム」については、
好評意見が多かったので引き続き放送していきたい。

3) 他局制作番組

「大山慎介の復活北海道」については、
好評意見が多かったので引き続き放送していきたい。

9. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場合における公表内容、方法及び年月日。

公表方法	自社放送、ホームページ、局内設置議事録
公表内容	委員の主な意見
公表年月日	平成31年4月15日

10. その他参考事項

特にありませんでした。